

保護者の皆様

小野市立来住小学校長 森田 史生

## 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果について

令和5年4月18日、小学6年生を対象に、国語・算数の学力調査及び生活状況調査が全国一斉に実施されました。本校の結果を全職員で分析・協議し、指導に活かしています。本校の分析結果の概要は、次の通りです。

### 国語の結果から

#### ①優れている項目

- 原因と結果など情報と情報との関係について理解している。
- 文章の種類とその特徴について理解している。
- 日常よく使われる敬語を理解している。
- 図表やグラフ等を用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。



#### ②課題となる項目

- △学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができる。
- △文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
- △話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができる。
- △目的や意図に応じ、話し手の考えと比較して、自分の考えをまとめることができる。

### 【考察】

- 全体的に見て、全国とほぼ同程度の結果であった。思考力、判断力、表現力等の「書くこと」の内容については、全国の平均正答率を大幅に上回っている。「書くこと」については、授業終末の「3分間 Review (振り返り)」などで自分の考えを書く活動を継続して行った結果が表れたと考えられる。ただし、条件作文は、必要な条件を満たせていないという課題が見られた。選択問題については、問題文を最後までしっかり読まず、選択肢の内容理解が不十分なため勘違いにつながる傾向も見られた。

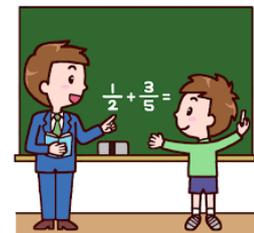
### 【今後の対策について】

- これまで通り、振り返りや自分の考えを「書く」活動を継続して取り組むとともに、文型を示したり条件を与えたりすることで、様々な表現方法に対応できる「書く」力を育成する。
- 「トリプルスタディ」の話し合い活動や様々な場面でのスピーチ・インタビューを重視し、話し手の考えを傾聴することを意識させることで、「話す・聞く」力を育成する。

### 算数の結果から

#### ①優れている項目

- 台形・正方形・正三角形の意味や性質について理解している。
- 高さが等しい三角形の面積の大小を判断し、理由を言葉や数で記述できる。
- 伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることができる。
- ( )を用いた式や、加法と乗法の混在した式を読み取り、言葉で説明することができる。



#### ②課題となる項目

- △「〇〇以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができる。
- △様々な棒グラフを読み取り、それらの違いを言葉と数を用いて記述できる。

### 【考察】

- ほとんどの領域において、良好な結果であった。さらに、児童全員が出題されたすべての問題に解答している（無解答なし）。「数と計算」「図形」「変化と関係」の項目については、すべての問題で正答率が高い。一方で、「データの活用」の項目では、正答率が低くなっている。多くの情報がある中で、必要な情報を見つける力に課題があると考えられる。また、「図形」の項目では、全国より上回っているものの正答率が低い問題も見られる。それは、図形の定義が定着していないことが考えられる。

### 【今後の対策について】

- 様々な図形の定義をしっかりとおさえる。
- 各学年の学習のつながりを意識して、1年生からしっかりと積み上げていく。
- 読解力をつけるため、日常生活や他教科の学習でも、表やグラフなどの各種情報を活用し慣れさせるようにする。

### 質問紙（生活面）調査の結果から

#### ①優れている項目

- 朝食を毎日食べている。 ○毎日、同じくらいの時間に起きている。
- 自分には、良いところがあると思う。
- 人が困っているときは、進んで助けている。 ○人の役に立つ人間になりたいと思う。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。 ○友達関係に満足している。
- 地域の行事に参加している。 ○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。
- 学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強している。

#### ②課題となる項目

- △新聞を読んでいない。
- △学校の授業時間以外に、普段読書している人が少ない。
- △本を読んだり、借りたりするために図書室や図書館に行く人が少ない。



### 【考察及び今後の対策について】

- 就寝時間以外は、ほぼ規則正しい生活習慣が身についている。脳の司令塔である前頭前野の発達を促すためには、「早寝・早起き・バランスの取れた朝食」が必要である。
- 自尊感情が健やかに育まれており、自分も他の人もすべて大切な存在だと感じている。人権教育の柱として取り組んでいる縦割り班活動や、児童会活動での達成感や充実感、Well-being（すべての人が持続的に心身ともに幸福感で満たされた状態）を大切にした学級での居場所づくり等が人権意識の高まりにつながっていると考えられる。
- 地域への関心は高く、普段から地域に支えられ大切にされていることを実感しているため、地域や社会へ貢献したいという強い気持ちが表れていると考えられる。
- 1日1時間以上の家庭学習に取り組むことができている児童の割合が高い。小中一貫教育の取組の一つである定期テストに向けての計画的な学習にも取り組んでいる。
- 新聞や本を読む習慣が身につけていない人が多い。近年、ネットからの情報に頼り、新聞離れや読書離れが進んでいる。読書習慣は学力と相関関係がある。家庭での時間の使い方として、スマホやインターネット、ゲーム、テレビの視聴で時間を消費してしまっているのであれば、その時間の一部を読書に変えていく等の意識改革が必要である。
- 本の魅力を子どもたちに伝えるとともに、読書習慣を身につけさせるため、家庭と連携を図る。また、スマホ等の使い方を今一度見直しながら、健全な生活習慣を定着させる。